

速硬化ウレタン樹脂を拡販



満留康幸社長

優れた耐候性や耐磨耗性などが特徴のポリウレタンを素材にした防水材は厳しい環境にさらされる下水管などの防食分野で必須の化学品だ。ウレタンは防水のほかにも断熱材、接着剤、さらに下地処理のためのプライマーやエラストマーなど幅広い用途で使われる高機能素材だが、北名古屋市のシンク化学工業は、こうした多彩なウレタン系

シンク化学工業

化学品を高品質、低コスト両立で供給できる有力メーカーとして、化学業界でも技術力が高く評価される一社である。

「価格以上の性能が引き出せる。品質は先行する欧州製の海外品に匹敵する」と注目を集めるコストパフォーマンス抜群の自社ブランド製品が2年前に発売した「速硬化型ウレタン樹脂」だ。スプレーで吹き付けて下水道の防食処理などに使われているが、輸入品より安価であることから販売

量は最近、右肩上がりが増えていくという。「この種の樹脂の国産化は当社が初めて。顧客のニーズに応じて特注生産にも対応でき、大手企業では断わられる特殊グレードの少量生産もお引き受けしている」と満留康幸社長はアピールする。

こうした新製品の拡販を支えるのが、大学院卒など樹脂合成に精通した技術スタッフを現場に配置した製造体制だ。本社を置く西春工場では定期的に設備投資を行ってお

り、昨年から今年にかけても反応釜を追加したり、接着剤のカートリッジ充填設備を導入するなどしてきた。「地下水の使用量を削減できるチラー方式の冷却設備を採用する環境投資も行った」（満留社長）。大手化学を顧客とする防水材、接着剤などの受託製造、そして自社ブランド事業。この2つが車の両輪のようにリズムカルに回り始めウレタン関連の技術水準は業界トップレベルに達している。

欧州製並み品質で低コスト